

日本心理臨床学会第30回秋季大会 自主シンポジウム
日本心理臨床学会 第30回秋季大会, 論文集,p693. 福岡国際会議場 204 :
2011年9月2日 (金)18:00-20:00

学生相談における心理学的介入モデル —多様性を共有する—

企画者：菊池悌一郎(九州工業大学) 長谷川明弘(金沢工業大学) 鈴木英一郎(三重大学)栗田智美(広島大学)
司会者：菊池悌一郎(九州工業大学)
話題提供者：鈴木健一(名古屋大学) 杉江征(筑波大学) 長谷川明弘(金沢工業大学)
指定討論者：齋藤憲司(東京工業大学) 鈴木英一郎(三重大学)

今日、学生相談の活動は個別の心理相談に限らず、グループワーク、キャンパス危機におけるケア、様々な教育活動など多岐にわたっている。しかしながら一方で多岐にわたる活動を展開していくなかで、心理臨床家の専門性の立ち位置が不透明になっている面があるように思われる。

そこで、今一度、自らの専門性を再確認するために、学生相談における心理学的介入モデルをキーワードとして、さまざまなオリエンテーションを背景にもつ心理臨床家同士が、学生相談について語り合うシンポジウムを企画した。今回、鈴木健一先生には精神分析、杉江征先生には認知行動療法、長谷川明弘先生にはブリーフセラピーの各立場から話題を提供していただき、さらに齋藤憲司先生、鈴木英一郎先生に議論を深めていただく。

このシンポジウムを通して、心理臨床家が学生相談を担っていくことの意義について再考できればと考えている。

当日のシンポジウムの流れ(敬称略)

18:00 開始～シンポジウム趣旨説明、シンポジスト、指定討論者紹介(菊池)

18:10 シンポジストから各自5分程度での立場(モデル)・職場などを紹介(鈴木(健)、杉江、長谷川)

18:30 事例紹介(栗田)、その後、事例についてシンポジスト、事例提供者で質疑応答等を行う。

19:15 事例の経過説明(栗田)とシンポジストからの質疑応答

19:30 自由討論(フロアからも含めて)

19:45 指定討論者(齋藤、鈴木(英))からのコメント

20:00 終了

ブリーフセラピーの立場から

学生相談における心理学的介入モデル
—多様性を共有する—

長谷川明弘
金沢工業大学
日本心理臨床学会第30回秋季大会 自主シンポジウム
2011.9.2. (金) 18:00-20:00
九州・福岡国際会議場 204

紹介

- 長谷川明弘(はせがわあきひろ)
 - ・ 2003年4月から金沢工業大学にて学生相談に従事
 - 医療機関にて認知症と心身症を持った方への支援
 - EAP機関にて従業員とその家族への支援
 - ・ 特徴:生涯発達期(乳幼児から高齢)を対象とし、個人に限定しない(家族、組織、地域)実践活動
 - ブリーフセラピー・家族療法:人と人との相互作用を考慮
 - 催眠法:人が意識していない資源を活用
 - 臨床動作法:心理過程としての「動作」を資源として活用
- 金沢工業大学は、工科系総合大学(14学科)
 - 学生数は、7千名程、教職員は、600名ほど
 - 大学院には、臨床心理士養成第一種指定の心理科学研究科

ブリーフセラピーの定義

- ・ 効果的で効率的なアプローチを希求し続ける心理療法の実証研究を参考にして、エリクソン(Erickson,M.H.)による臨床実践をモデルに位置づけながら相互作用論に立脚して問題解決のためにセラピストとクライアントの協働によって変化をもたらそうとする心理療法 (長谷川ら,2003)

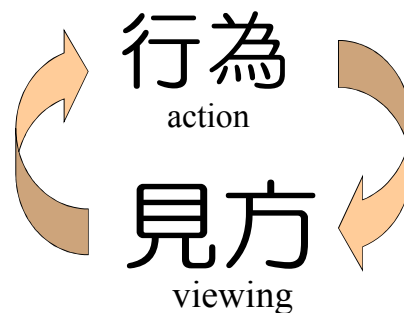
ブリーフセラピーの特徴

- ①意味づけと行為の変化(小さな変化)
- ②相互作用(個人内、対人間、組織、地域)
- ③一人一人にあった介入
- ④具体的な行動レベルで描写
- ⑤肯定面に焦点づけ(病理を重視しない)
- ⑥病理水準を想定せず、年齢は制限しない
- ⑦未来志向
- ⑧日常生活における体験の変化を目指す
- ⑨必ずしも当事者が来る必要はない

ブリーフセラピーを理解する枠組 背景にある考え方

- システム理論
- オンゴーイング・アセスメント
- 社会構成主義
- サイバネティックス
- 直線的因果律と円環的因果律
- 変化の6段階
- 人格構築理論

変化のために —前提となる考え方—



学生相談とブリーフセラピー －システム理論－

- 面接構造と連携
 - － 個人、学生同士、教職員、家族、地域
- システム(あるいは系)の中に下位構造としてのシステムを想定し、その下位システム間や上位のシステム間の相互作用の関係があって全体のシステムが成立している

システム理論

16

学生相談とブリーフセラピー －オン・ゴーイング・アセスメント－

- 組織と自己のマネジメント
 - － 相談担当者と大学の「関係」を推し量りながら関係を構築しつつ、実践活動を展開させていく姿勢が求められる
 - － 相談担当者が大学という組織に適応していく過程もしくは新しい文化を根付かせる過程の中で展開していく

オン・ゴーイング・アセスメント

- 関係性の中で柔軟に修正、変更しながらアセスメントを行うこと)

14

人と人との間で問題が構築される －社会構成主義－

- 自分以外に誰かがいると、そいつとの関係を考えなくてはならなくなる。その苦勞に人間はずっと取り憑かれている。
- 森博嗣 2005 ナ・バ・テア None But Air 中公文庫,p82

16

ブリーフセラピーの主要モデル

- ストラテジーック・アプローチ
- MRI・アプローチ
- 解決志向・アプローチ
- エリクソニアン・アプローチ

17

ご静聴
ありがとうございました。